環境指針

三菱ふそうは「All for you」という経営理念の下、企業倫理や品質などをはじめ、企業活動全般において、「すべてはお客様のために」を念頭に置いています。
それと連動する状況で、環境については「環境指針」に基本的な方針をまとめています。また「FUSO 2015」という新たな改善プログラムにおいて、その主要な柱の一つとして、環境への一層の取り組みを検討しています。

三菱ふそう環境指針

基本指針
地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し
（1）グローバルな視野に立ち、車に関する開発、購買、生産、販売、サービスなど全ての企業活動の中で総力を結集し、環境への負荷低減に継続的に取り組みます。
（2）社会を構成する良き企業市民として、積極的に地域や社会の環境保全活動に取り組みます。

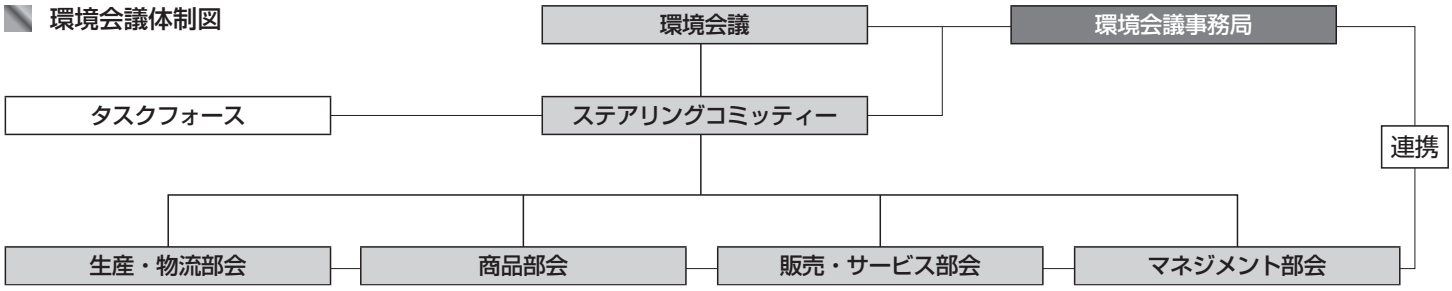
行動基準
（1）製品のライフサイクル全ての段階において、環境への影響を予測評価し、環境保全に努める。

＜重点取り組み＞
●温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化防止に努める。
●環境汚染物質の排出を抑制し、汚染の防止に努める。
●省資源、リサイクルを推進し、資源の有効活用と廃棄物の低減に努める。
（2）環境マネジメントの充実に努め、継続的に環境改善に取り組む。
（3）環境規制、協定を遵守し、自主管理目標を設定して環境保全に取り組む。
（4）国内外の関連会社や取引先などと協力し、環境保全に取り組む。
（5）環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解に努める。

環境会議

三菱ふそうでは会長を議長とする「環境会議」を組織、運営し、全社的な環境保全活動を推進しています。環境会議の下にステアリングコミッティーを組織し、その傘下に「商品部会」「生産・物流部会」「販売・サービス部会」「マネジメント部会」の4部会を配置しました。
ステアリングコミッティーでは、各部会長をはじめ、各部会事務局のメンバーも交え、さまざまな環境に関わる事項への対応を行うため、議論、検討の頻度を高め、情報の共有化など、一層のコミュニケーションの充実を図ると共に、フレキシブル且つタイムリーな対応を可能としました。
これからも常に社会の動き、ニーズに遅れることなく、企業活動全体でスムーズな環境保全を進められるよう、組織の充実を図っていきます。

環境会議体制図



環境中期計画（環境サステナビリティプラン）

2003年、三菱ふそうは、環境中期計画「環境サステナビリティプラン」を設定し、環境マネジメント、リサイクル、地球温暖化防止、環境汚染防止の4つの観点から具体的な目標を掲げています。
毎年度ごとに具体的な「アクションプラン」を策定し、取り組みを推進しています。
三菱ふそうは、その進捗状況及び取り組み結果を毎年この報告書で社会に公表しています。
2010年の活動評価は次ページの通りです。活動の詳細については、各項目の参照ページをご覧下さい。

※各項目の環境中期目標については、
http//www.mitsubishi-fuso.com/ECO/plan/index.htmlをご覧下さい。

環境サステナビリティプラン	2010年（度）目標	2010年（度）実績	参照頁

（1）環境マネジメント

販売会社との連携

環境マネジメントシステムの構築支援	環境マネジメントシステムの運営支援	継続実施中	23

情報公開

環境に関する情報公開	環境情報の随時公開	ホームページで環境情報を随時公開	14

取引先との連携　グリーン調達

ISO14001認証の取得推進	主要取引先におけるISO14001の認証取得拡大	引き続き推進中	18

（2）リサイクル

自動車リサイクルの推進

国内／欧州の自動車リサイクル法への対応	国内自動車リサイクル法の定着に向けた確実な対応と取り組み	再資源化等の実績を公表。また、ASRリサイクル率の法定基準（50%）を達成（81.3%）	24

生産工程における廃棄物低減と省資源

埋立処分量のゼロ化	廃棄物発生量に対する埋立処分率0.1%以下の維持管理	廃棄物発生量に対する埋立処分率0.006%	19
リサイクルの推進	リサイクル率98%以上の継続	リサイクル率99.8%	19
生産工程での副産物の発生抑制	売上高あたりの発生量（金属屑）を2002年度以下に低減	売上高あたりの発生量： 2002年度比28%低減（0.0423t／百万円）	20

（3）地球温暖化防止

自動車の燃費低減

トラック・バスの燃費低減	重量車燃費基準適合車の展開拡大	重量車燃費基準に適合した各クラストラック・バスの市場投入	15

エアコン冷媒への対応

フロン系冷媒HFC134a使用量の削減	冷媒使用量を削減したエアコンシステムの順次採用	高効率で省冷媒タイプのエアコンの展開を継続実施	16
HFC134aを使わないエアコンの開発促進	新冷媒エアコンの開発を継続推進	関連メーカ各社と共同で開発	16

交通流円滑化

車両データ通信による運行管理システムの開発	運行管理システムの支援	ふそうエコフリートPRO（デジタルタコグラフ）の支援	16

生産・物流での対応

工場のCO_2の排出抑制	CO_2総排出量：1990年度比20%以上削減	CO_2総排出量：1990年度比54%減	19
物流におけるCO_2の排出抑制	完成車出荷に係る輸送量［t·km（トンキロメートル）※1］当たりのCO_2を前年比1%削減	完成車出荷に係る輸送量当たりのCO_2： 59.0g／t・Km（前年比△3.3%）	22

（4）環境汚染防止

低公害車の開発・普及

クリーンエネルギー車の市場導入	ハイブリッド電気自動車の開発促進	更なる燃費向上を図った2010年型キャンターエコハイブリッドを市場投入	16
国内・海外の排出ガス規制への対応	各規制適合車のタイムリーな市場導入	ポスト新長期排出ガス規制適合車の市場投入	8

騒音低減

国内・海外の騒音規制への対応	各規制適合車のタイムリーな市場導入	規制に適合するトラック・バスの市場投入	—

生産工程における環境負荷物質の低減

VOC排出抑制	• キャブ塗装工程でのVOC排出削減 目標：20g／m^2以下 • VOC削減方法の検討・実施	VOC※2排出量：17g／m^2	20

※1： t・km（トンキロメートル）：輸送重量（t）に輸送距離（km）を掛けた数量
※2： VOC（Volatile Organic Compounds）：トルエン、キシレン等の揮発性有機化合物の総称

ISO14001の取り組み

ISO14001 認証取得

三菱ふそうでは、環境取り組みの透明性、信頼性を確保するために、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を下表に示すようにまず生産本部（製作所）において取得しました。
2002年12月には、生産本部の認証更新にあわせて、「開発・設計業務に関する環境マネジメントシステム」についても認証を取得しました。

■ISO14001認証取得状況

三菱ふそう	生産本部	1999年12月
	開発部門に拡大	2002年12月
国内関連会社	三菱ふそうバス製造（株）	2003年12月
海外関連会社	MFTE（ポルトガル）	2002年 2月

環境監査

環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認し更なる改善を図るため、部門毎に年1回の内部監査と、第三者機関による年1回の外部監査を実施しています。
内部監査では、資格認定制度により社内外の教育を受けて認定された内部監査員（社員）が環境関連項目を確認します。そこで指摘を受けた事項については、最高責任者のチェック＆レビューを受け、的確な是正措置が実施されます。また、すぐれた取り組みについては、全部門へ広く展開される仕組みとなっています。
2010年の外部監査では、不適合0件と観察事項7件の指摘を受けました。全体としては環境マネジメントが適正に運用・維持されているとの評価をいただいています。指摘事項については直ちにシステムの是正を行うとともに、引き続きよりレベルの高いシステムの運用を目指し努力していきます。
また、2008年11月にはダイムラートラックグループの一員としてダイムラー社による環境監査を受けました。
同監査で指摘を受けた課題について、現在対策を実施中であり、今後は更にレベルアップした工場環境の実現を目指しています。

緊急時対応、環境に関する事故など

緊急時対応

工場の生産活動においては、安全操業と環境負荷低減のために、適正な運転基準・作業標準を定めて、安定した操業の維持管理に努めています。地震などの天災や日常の作業の中で予想される緊急事態を想定し、最善の方法で対処できるように、「緊急時の対応方法」を定めて定期的に対応訓練を実施しています。

事故

2010年は、環境に関連した事故はありませんでした。

苦情

2010年には地域の方々から、川崎工場内の騒音・臭気に関するご指摘を5件、また工場周囲の落葉などに関するご指摘を3件受けました。これらに対して、原因究明や社員への指導に努めるとともに、工場内のパトロール等によるモニタリングを実施しています。

訴訟

環境に関する訴訟はありませんでした。

環境に関するリコール等

2010年は、総数14件のリコールを届け出ました。環境に関するものとして、大型トラックにおける噴射系異常による排気系の不具合（届出番号：2561）がありました。詳細については、三菱ふそうホームページの「リコール情報」欄をご参照下さい。
（http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/news/recall/index.html）

環境会計／環境コミュニケーション

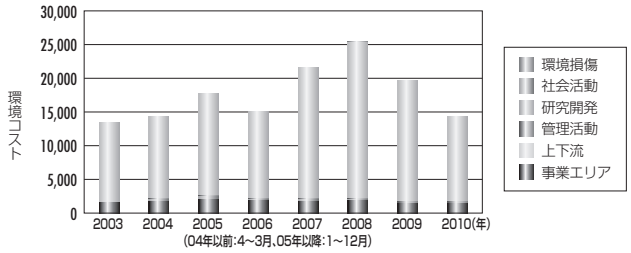
三菱ふそうの環境会計は環境省の環境会計ガイドライン2005年版を参考としています。当社は決算期間に合わせ、環境会計についても1 ～ 12月を会計期間としています。

環境保全コスト※1

2010年の環境コストの総額は約143億円で、売上げ高の約2.6%でした。前年に比べ約54億円減少しましたが、原因は、ポスト新長期排出ガス規制対応等が一段落し、研究開発コストが減少したことによるものです。

■環境保全コスト（単位：百万円）

分　類		09年	10年	10年対09年増減
(1) 事業エリア内コスト		1,392	1,413	21
内訳	①公害防止コスト	423	273	−150
	②地球環境保全コスト	757	901	144
	③資源循環コスト	211	239	28
(2) 上・下流コスト		100	83	−17
(3) 管理活動コスト		192	254	62
(4) 研究開発コスト		18,005	12,514	−5,491
(5) 社会活動コスト		19	24	5
(6) 環境損傷対応コスト		1	1	0
合　計		19,709	14,289	−5,420



環境保全効果※2

PRTR関連と水資源投入量は削減しましたが、総エネルギー投入量、廃棄物発生量、輸送時のCO_2排出量については、前年からの生産量の回復により増加しました。

■環境保全効果

項　目（単位）	09年	10年	環境保全効果
(1)事業活動に投入する資源に関する環境保全効果			
総エネルギー投入量（10^{12}J）	1,410	1,488	−78
PRTR対象物質投入量（t）	491	273	218
水資源投入量（千m^3）	513.7	478.9	34.8
(2)事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果			
生産でのCO_2排出量（千t）	70.9	70.1	0.8
完成車輸送時のCO_2排出量（t）	2,101	3,135	−1,034
PRTR対象物質排出量・移動量※3（t）	176	92	84
廃棄物発生量（t）	16,243	19,396	−3,153
廃棄物最終処分量（t）	1.5	1.2	0.3

環境保全対策に伴う経済効果※3

例年同様「廃棄物のリサイクルに伴う収益」が得られましたが、エネルギー費用、廃棄物処理費用は、生産量の回復により増加しました。

■環境保全対策に伴う経済効果（単位：百万円）

分　類	項　目	経済効果
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	462
費用節減※5	エネルギー費用の削減	−206
	廃棄物処理費用の削減	−15
	用水購入費用の削減	14
合　計		255

環境コミュニケーション

三菱ふそうは、インターネットホームページ、冊子、各種行事を通じて、環境取り組みに関する情報を皆様に提供しています。当社のホームページでは、過去の環境報告書、車種別環境情報、低公害車開発への取り組みなど、環境に関する様々な情報を逐次掲載しています。お客様への情報提供として、車両の環境情報をカタログにも掲載しています。

（「環境への取り組み」サイト　http://www.mitsubishi-fuso.com/ECO/index.html）

環境に関する行事・イベントへの出展

三菱ふそうは、各地で開催される低公害車フェアなどに参加しています。2010年は、2月に開催された「川崎市国際環境技術展2010」、6月に開催された「エコカーワールド2010」、12月に開催された「エコプロダクツ2010」などの展示会やフェアに出展しました。

川崎市国際環境展2010

エコプロダクツ2010

※1： 環境保全コスト
（1）各製作所における省エネ、省資源、廃棄物処理などの環境対策に係るコスト
（2）使用済み部品の回収などのコスト
（3）ISO14001、社員への環境教育などのコスト
（4）燃費低減、排出ガス低減などの研究開発に係るコスト
（5）環境関連の外部団体への寄付金などのコスト　（6）国等への賦課金などのコスト

※2： 環境保全効果　環境負荷の発生の防止、制御または回避などの効果を物理量で表したもの
※3：「移動量」からは廃棄物を除く
※4： 環境保全対策に伴う経済効果
環境保全対策を進めた結果、企業等の利益に貢献した効果を貨幣単位で表したもの
※5： 対象年実績と前年実績の差を「効果」として算出した。